

○水生生物モニタリング調査結果一覧（いわき市沖M）

<いわき市沖M 水質底質採取項目>

項目	一般分析項目		放射性物質分析項目			
	水質	底質	水質 (Cs)	水質 (Sr)	底質 (Cs)	底質 (Sr)
M-2	○	○	○	○	○	○

<いわき市沖M 現場測定項目>

項目	調査緯度・経度		調査日時			水質	底質				その他	
	緯度	経度	日	時刻 (水)	時刻 (泥)	水温 (℃)	泥温 (℃)	性状	色相	混入物	全水深 (m)	透明度 (m)
M-2 (表層)	37.1996°	141.0853°	H29.12.2	08:28	08:37	14.3	13.1	細砂	7.5Y4/2	貝殻片	43.3	12.3
M-2 (下層)				07:47		18.5						

<いわき市沖M 一般分析項目・放射性物質分析項目 水質>

項目	調査緯度・経度		調査日時		pH	BOD (mg/L)	COD (mg/L)	DO (mg/L)	電気伝導率 (mS/m)	塩分	TOC (mg/L)	SS (mg/L)	濁度 (度)	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)	Sr-90 (Bq/L)
	緯度	経度	日	時刻												
M-2 (表層)	37.1996°	141.0853°	H29.12.2	08:28	8.0	<0.5	0.9	8.6	5020	33.78	0.8	<1	0.4	N.D. (0.0010)	0.0047	—
M-2 (下層)				07:47	8.0	<0.5	1.1	8.4	5040	33.68	0.8	<1	0.4	N.D. (0.00098)	0.0071	0.00090

注) N.D.は、not detected(検出下限値未満)を示し、括弧内の数字は検出下限値を示す。

<いわき市沖M 一般分析項目・放射性物質分析項目 底質>

項目	調査緯度・経度		調査日時		pH	酸化還元電位 E _{N.H.E} (mV)	含水率 (%)	IL (%)	TOC (mg/g-dry)	土粒子の密度 (g/cm ³)	粒度組成							Cs-134 (Bq/kg-dry)	Cs-137 (Bq/kg-dry)	Sr-90 (Bq/kg-dry)	
	緯度	経度	日	時刻							礫 (2～75mm) (%)	粗砂 (0.85～2mm) (%)	中砂 (0.25～0.85mm) (%)	細砂 (0.075～0.25mm) (%)	シルト (0.005～0.075mm) (%)	粘土 (0.005mm未満) (%)	中央粒径 (mm)				最大粒径 (mm)
M-2	37.1996°	141.0853°	H29.12.2	08:37	7.8	216	25.9	1.9	1.8	2.741	0.8	0.9	3.0	90.4	2.5	2.4	0.15	4.8	2.8	26	N.D. (0.14)

注) N.D.は、not detected(検出下限値未満)を示し、括弧内の数字は検出下限値を示す。

<いわき市沖M 分析項目 水生生物>

地点	採取場所	調査緯度・経度		採取日	門	綱	目	科	学名	和名	個体数	採取重量 (kg-wet)	特記事項			放射性セシウム (Bq/kg-wet)			Sr-90 (Bq/kg-wet)
		緯度	経度										成長段階	消化管内容物	測定部位	計	Cs-134	Cs-137	
M-1 M-2 M-3	久之浜沖	37.1736° 37.1996° 37.2324°	141.0788° 141.0853° 141.0935°	H29.12.2	軟体動物	頭足	八腕形	マダコ	<i>Octopus vulgaris</i>	マダコ	1	1.2	成体	—	—	N.D.	N.D. (0.46)	N.D. (0.58)	—
					棘皮動物	ウニ	ホンウニモドキ	ホンウニモドキ	<i>Glyptocidaris crenularis</i>	ツガルウニ	9	0.61	成体	—	—	9.9	1.1	8.8	—
					脊椎動物	硬骨魚	カレイ	ヒラメ	<i>Paralichthys olivaceus</i>	ヒラメ	1	2.3	成魚	アサギ類	内臓除去	1.2	N.D. (0.35)	1.2	—
					脊椎動物	硬骨魚	フグ	カワハギ	<i>Thamnaconus modestus</i>	ウマヅラハギ	1	0.27	未成魚	—	—	N.D.	N.D. (0.48)	N.D. (0.52)	—
					脊椎動物	軟骨魚	カンキエイ	カンキエイ	<i>Okamejei kenojei</i>	コモンカスベ	2	1.5	未成魚	ヒト類	内臓除去	4.37	0.57	3.8	—

※1：生物は、当該調査水域またはその周辺で採取したものである。

※2：水生生物を複数採取できた場合は、これらを混合して試料とした。

※3：複数種の混合試料においては、最も多く採取できた優占種を、和名に下線で示した。

※4：生物試料は、全個体を測定することを原則とするが、消化器系に残留した未消化の餌料や底泥等は測定しないよう、内臓（胃、腸）の除去が可能な試料については、除去して測定した。

※5：プランクトン（浮遊藻類）とは、湖沼水または海水を40μmのプランクトンネットで濾した残留物を指す。

※6：河床付着物（藻類を含む）とは、石に付着した藻類をブラシ等で掻き落としたものであるが、無機態のシルト・粘土等の微細粒子が含まれることがある。

※7：N.D.は、not detected(検出下限値未満)を示し、括弧内の数字は検出下限値を示す。

※8：放射性物質濃度の数値には計数誤差等が含まれているが、本報においては記載していない。